

2015 年度後期

「比較文化 II」

期末レポート

科目名：比較文化 II（水曜日 4 限目）

環境創造学科 3 年生・4 年生・5 年生

担当教員：丸山純

〒167-0041 東京都杉並区善福寺 4-5-12

03-5310-3731 / jun@site-shara.net

提出期日（最後の授業）：2016 年 1 月 20 日（水）

提出場所：授業中に回収

最後の授業に欠席の場合・間に合わない場合：上記丸山の自宅宛に郵送のこと

1 月 27 日（水）必着

学生氏名	
学籍番号	
提出日	2016 年 1 月 日

【全体的な注意】

☆**A4判の用紙**に、設問の番号を書いて（たとえば [Q・1] のように）、その下に答えを書くこと（手書きでも、パソコンのワープロソフトを使って印刷したものでもよい。横書きで）。なるべく見やすくなるよう工夫してほしい。**この問題用紙は、提出しなくてよい。ただし、必ず所定の表紙を付けて提出する。**

☆設問は、**全5問すべて解答すること**（選択式ではない）。

☆設問には、答えてほしい最低の文字数が指定されている。最低限そのくらいの内容は書いてほしいという意味なので、びったり合わせようとしなくてもよい。ただし、指定した文字数にあまりにも足りない場合は評価（点数）を下げるし、もちろん、長く詳しく書いてくれればくれるほど、歓迎したい。その努力分に応じて、加点する。

☆「自分の意見の表明」が期待されているところでは、授業で習ったことをそのまま書くのではなく、自分の考えをしっかりと書いてほしい。その場合、ただ「～と思う」ではなくて、**どうしてそう思ったのか、理由もはっきり、具体的に述べること。**

☆箇条書き風に個別の文章を並べるのではなく、前後の脈絡を考えた、**きちんとした日本語の文章に**すること。

☆評価は、以下の5つの観点からおこなう。[1] 設問の意図を的確に把握しているか。[2] 文字数を指定以上の分量で答えているか。[3] 独善的にならず、客観的に自分の意見を表明しようとしているか。[4] 授業で触れた内容をきちんと理解し、把握しているか。[5] 自分自身の問題としてとらえ、前向きな姿勢が感じられるか。

☆**レポートを提出しない者は、0点となるだけでなく、平常点からマイナス20点を引く。**これまで出席やコメント票でかなり高評価を得ていないと、60点（C）に達することは難しくなるだろう。

【Q・1】

以下は2015年度後期の「比較文化 II」の授業全14回の内容（一部は予定）である。このうち、「もっとも君の印象に残った授業」はどれか。番号で答え、さらに「その理由」を400字以上の文章で具体的に説明せよ（参考になった点、面白かった点、考えさせられた点、疑問に思った点など）。複数挙げてくれても、もちろんかまわない（その分点数を増やす）。理由が長くなるのは大歓迎。ただし、これがレポートであることを忘れないように。単なる感想だけでは駄目。「理由を具体的に」書くこと。

No. 01 (9/16) …ガイダンス／世界の音楽巡り・中級編

No. 02 (9/30) …ロマ民族の出自と移動／ロマの迫害の歴史／映画『ラッチョ・ドローム』鑑賞

No. 03 (10/7) …カラーシャの暮らしの変遷／援助が文化を変えていく／巨額の援助の弊害／プレイグラウンド建設

No. 04 (10/14) …チトラルのイスラーム社会／チトラル各地の音楽／グローバル化による音楽の変容／部族地域の特質／パシュトゥーン社会における部族の掟／9.11後の「テロとの戦い」／マララ・ユースフザイ／無人機による空爆

No. 05 (10/21) …イギリスにおけるパキスタン移民／映画『ぼくの国、パパの国』鑑賞／英国労働者階級の暮らしぶり／国際結婚と英国化した子どもたち／反移民感情／反イスラーム感情

No. 06 (10/28) …『イギリスの中のパキスタン』で知る移民の実態／格差と疎外感、過激主義／BBCのドキュメンタリー番組に見る移民問題の現実／多文化主義国家イギリスの現状／階級格差と分割統治／ロンドン同時爆破テロ事件／寛容の国オランダの変遷／社会の柱状化と相互無関心

No. 07 (11/11) …ヨーロッパ文明とイスラームの関わり方の歴史／壁をつくって同化を阻むドイツ社会／血統主義／コミュニティ形成を認めないフランス／ライシテ（聖俗分離）との衝突／スカーフ問題からヴェール禁止法へ／近未来小説『服従』

No. 08 (11/18) …エマニュエル・トッドが見つけた8つの家族型／家族型と歴史的事象の関連／アメリカ…絶対核家族の差異主義／イギリス…絶対核家族の差異主義

No. 09 (11/25) …ドイツ…直系家族の差異主義／フランス…平等主義核家族の普遍主義／多文化主義では、移民問題は解決できない／超大国アメリカの凋落を警告した『経済幻想』と『帝国以後』／ハンチントンの『文明の衝突？』／イスラーム脅威論に反論する『文明の接近』／木を見る西洋人、森を見る東洋人／子育て法の違いが文化の差を生む／

No. 10 (12/2) …知の巨人・梅棹忠夫／中洋の発見から文明の生態史観へ／第一地域と第二地域／生態学のサクセッション理論の応用／東南アジアの区分の追加／評価と批判／文明の海洋史観の意義／文明の生態史観の今日的意味

No. 11 (12/9) …冷戦の開始／中東戦争とエジプトにおける過激主義の系譜／イラン革命／ソ連のアフガン侵攻／タリバンの伸張／イラン・イラク戦争／湾岸戦争／9.11同時多発テロとアフガン戦争／イラク戦争／アラブの春

No. 12 (12/16) …カラーシャの冬の大祭チョウモス／クリスマスとの類似／2週間続くチョウモス祭の日程／チョウモスの聖なる歌／二音旋律／9つの旋律型と祭りの構造との相関／祭りの特質／リミナリティとコミュニタス、そしてカタルシス

No. 13 (1/13) …世界の音楽巡り・イスラーム編／教義と音楽／イスラーム神秘主義教団の音楽／カッワーリ／ロックバンド Junoon とイスラーム／コークスタジオの音楽／ジハード・ナシードによるジハードへの勧誘

No. 14 (1/20) …イスラーム国の成立と現状／日本人の起源／タテ社会の人間関係（変更の可能性あり）

【Q・2】

2015年11月13日に、死者130名、負傷者300名以上を数えるパリ同時多発テロ事件が起こったことは、まだ記憶に新しい。以下は、ある遺族がFacebookに投稿した文章をめぐる朝日新聞記事とNHKのニュースである。これを読んで、「なぜこのレリスさんの投稿が多くの人々の共感を呼んだのか」を具体的に考察し、また「君自身はこの投稿を読んで何を感じたか」をまとめてほしい。箇条書きを並べるのではなく、まとまった文章にすること。[最低600字見当]

「君たちに憎しみあげない」テロ遺族FB文章に共感の輪

2015年11月19日23時19分／朝日新聞デジタル

「君たちに憎しみという贈り物はあげない」――。パリ同時多発テロで妻を亡くした仏人ジャーナリストが、テロリストに向けてつづったフェイスブック上の文章に、共感が広がっている。

パリ在住の仏人映画ジャーナリスト、アントワーン・レリスさん（34）が書いた。13日夜にコンサートホール「ルバタ克蘭」で起きたテロで妻エレンさん（35）を失った。

「金曜の夜、最愛の人を奪われたが、君たちを憎むつもりはない」という書き出しで始まる文章は、妻の遺体と対面した直後に書いた。

「君たちの望み通りに怒りで応じることは、君たちと同じ無知に屈したことになる」と憎しみを否定。「君たちの負けだ。（略）幼い息子の幸せで自由な日常が君たちを辱めるだろう。彼の憎しみを勝ち取ることもないのだから」と、1歳半の息子と2人で普段通りに暮らし続けることを宣言している。

文章は19日現在、フェイスブック上で20万回以上共有され、「あなたの言葉は武力よりも強い」などと多くのメッセージが寄せられている。

レリスさんは17日、仏ラジオに「文章は、幼い息子を思って書いた。息子には、憎しみを抱かず世界に目を見開いて生きてほしいから」と語った。（パリ＝渡辺志帆）

『君たちは私の憎しみを得られない』

金曜日の夜、私のかげがえのない人、そして息子の母親である人の命を君たちは奪った。

けれども、君たちは私の憎しみを得られないだろう。君たちが誰なのか知らないし、知りたくもない。君たちの魂は死んでいる。無差別な殺りくの名目となった神が自分の姿に似せて人間をつくったのだとしたら、妻の体の中にある銃弾の一つ一つが神の心の傷となるだろう。

だから、憎しみという贈り物はあげない。君たちは憎しみを求めたが、憎しみに怒りで応じることは、君たちと同じく無知に屈したことになる。私が怖がり、市民を警戒の目で見、安全のために自由を犠牲にすることを君たちは願っているのだろう。しかし、君たちの負けだ。私は変わらない。

何日も何夜も待ち、私はけさ、ようやく妻に対面した。彼女は先週の金曜日に出かけたときと同じくらい美しかった。12年以上前に激しく恋に落ちたときと同じくらい美しかった。もちろん、私は深い悲しみに打ちのめされている。君た

ちが小さな勝利を取めたことを認めるが、それも長続きはしないだろう。妻は私たちのそばにいる。君たちが決して行くことができない自由な魂の天国で妻と再会できることを私は知っている。

私と息子は2人になったが、私たちは世界中の軍隊よりも強い。それに、私はこれ以上君たちのために割く時間はない。昼寝から目を覚ますメルビルのそばにいてあげなければならない。息子は生後17か月で、いつもと同じようにおやつを食べるだろう。そして、いつもと同じように私たちは遊ぶだろう。

息子が幸せに、自由に生き続けることが君たちを辱めるだろう。なぜなら君たちは、息子から憎しみを得られないからだ。(11月20日20時03分／NHKニュースより)

【Q・3】

以下は1月9日の朝日新聞の朝刊に掲載された記事である。朝日新聞では元日の紙面から「18歳をあるく」という18歳の若者の現状に迫ろうという連載を続けているが、この回では「パリ同時多発テロ事件」の実行犯らが育った、パリ郊外の移民街が舞台となっている。この記事を読んで、「フランスの移民政策は、イギリスやドイツと比べてどんな特徴があるのか」「どんな点に問題が生じやすいのか」を指摘せよ。そして今後、「(フランスだけでなく) 私たちがどのような意識で国内に住む外国人やその二世・三世たちと接していくことが必要」か、君の考えを述べよ。この記事が触れている範囲をはみ出して、多文化主義と同化主義の功罪、その背景にある国民感情、家族制度などの社会のしくみの相違、昨秋のパリの同時多発テロなど、後期の授業で触れてきたさまざまな知見や情報を総動員して書いてくれることを強く期待する。[最低800字見当]

偏見・排斥…ラップであらう 仏テロの街、募る閉塞感

2016年1月9日03時48分／朝日新聞デジタル

■18歳をあるく

夜明け前のパリ近郊サンドニの市街地に、銃声と爆発音が鳴り響いた。仏治安部隊が昨年11月18日、イスラーム過激派が潜むアパートを急襲し、男女3人が死んだ。その5日前に、130人の命を無差別に奪ったパリ同時多発テロの首謀者も含まれていた。

この街にはテロの標的となった「スタッド・ド・フランス」もある。1998年のサッカーワールドカップのために建てられた。移民家庭で育った選手が多い仏代表チームが優勝。このサッカー場は国民統合の象徴となった。

「腹が立つよ。なんで世間は犯罪者の街というレッテルを貼るんだ」

セーヌ川の水を引き込んだ運河を望むサンドニの公園で、18歳の専門学校生バイユー・ガッサマさんは伏し目がちに話し始めた。

両親はフランスの旧植民地だった西アフリカの国々から移り住んだ。離婚したギニア出身の母(49)は、ホテルの清掃員をしながら長男ガッサマさんをはじめ6人の子どもを育てる。家族はサンドニ近くの低所得者住宅を転々としてきた。

サンドニのあるセーヌサンドニ県は、フランスの大都市の周りに広がる「バンリユー(郊外)」の典型といわれる。昨年3月現在の失業率は約13%。フランス本土の平均よりも3ポイントほど高い。県内に住む人の4分の1が「貧困状態」にあるとみられる。

小遣いほしさに薬物の売人になる若者は後を絶たない。2年前、ガッサマさんの近所の19歳の少年も争いに巻き込まれ銃で撃たれて死んだ。「自分も同じ道をたどったかもしれない」とも思うが、バンリユーの若者というだけで犯罪者扱いするフランス社会の風潮は許せないという。

ガッサマさんはやり場のない怒りをぶつけ、心情をあらわにする方法を見つけた。3年前に友人と始めたラップだ。昨年9月、サンドニの市役所が主催する大会に出場し3位に入賞。パリのテロを受け、こんな歌詞を書きとめた。

「汚れた言葉がいらいだちをかき立てる」

「この陰鬱(いんうつ)な場所の出口はふさがっている」

ガッサマさんと同じように閉塞(へいそく)感の中でもがく高校生がいる。セーヌサンドニ県ノワジュールグランのサラ・バリットさん(18)は、テロで3年前の苦い思い出がよみがえったという。

アルジェリアからの移民で、スカーフで髪を覆う熱心なイスラーム教徒の母と電車でパリに向かう途中、見知らぬ男性に「ここはお前たちの居場所じゃない。国に帰れ」とののしられた。都心に繰り出す浮かれた気持ちが一瞬で凍り、恐怖と怒りに変わった。

「パリでテロが起きた時、とても悲しかった。そして自分たちがテロリスト呼ばわりされるのではという恐怖が襲ってきた」

バンリューの若者を代弁し、その声を発信するブログメディア「ボンディ・ブログ」もテロの直後、「私たちは二重におそれる」という表題を掲げた。若者がテロと排外主義の双方の脅威にさらされているという告発だった。

「フランスが白人の国で、バンリューの若者が悪人だと思い込んでいる人たちの偏見を改めたい」。バリットさんは2年前にフランス国籍を取得した。6月の大学資格試験で好成績をあげ、ジャーナリズムを専攻したいという。

昨年10月、18歳になって一番うれしかったのは選挙権を得たことだ。一票を投じ、移民排斥を訴える右翼政党が政権に就くのを阻止したいという。自分のような移民家庭で育った若者を排除する力に抗（あらが）い、自分たちの「居場所」を守ろうとしている。（パリ＝渡辺志帆・36歳）

【Q・4】

映画『ぼくの国、パパの国』を観て、初めて普通のイスラーム教徒の暮らしぶりに触れた人も少なくないはずだ。それはおそらく、君たちがこれまでいじめてきたイスラームのイメージとは、ずいぶんかけ離れていた部分も少なくなかったと思う。「へえ、と意外に感じられたシーン」「なんだ、そうなのかと、これまでの認識を新たにしたシーン」「宗教は違っても、やっぱり同じ人間だなと感じたシーン」など、映画を観て感じたところを、あくまでも“イスラーム”をキーワードにして、述べてほしい。もう記憶が薄れている人は、レジュメにあらすじを紹介しているので、手がかりになるのでは？ [最低400字]

【Q・5】

君はこの9月から「比較文化Ⅱ」の授業を受講してきた。この授業で君は、何を学んだか？ 何が身についたか？ これまでの自分と比べて何か考え方が変わったか？ 今後どんな点に注意して外国人や異文化と接していきたいか？——君が「この授業で得たもの」を、“多文化共生社会”というキーワードをテーマに据えて、「自分の考え」として自由に書いてほしい。（最低800字見当。長ければ長いほど歓迎）

以下は、これまでコメント票があまり充実していなかったり（公欠・病欠などで未提出の場合も含む）、欠席が多いなど評価に不安のある人、より高い評価を得たいと希望する人のために特別に用意した「エクストラ設問」である。好きなものを選んで、【Q・1】～【Q・5】の後ろにいくつでも追加してほしい。努力の程度（分量や内容）に応じて、点数を増やす。

【Extra・1】

授業中に紹介した以下の本を読み、感想をA4の用紙1枚以上にまとめる（800字以上）。手書きでもパソコンで書いてもよい。書名、著者名を必ず記入すること。絶版のものもあるが、図書館で閲覧したり、アマゾンなどで安く購入できるものもある。一部は丸山から貸すことも可能。近いテーマの本であれば、ここに挙げてないものでもよい（事前に相談すること）。

関口義人『ジブシーを訪ねて』（岩波新書）

アユーブ・カーン＝ディン『ぼくの国、パパの国』（白水社）

マララ・ユースフザイ『わたしはマララ——教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』（学研マーケティング）

ムハンマド・アンワル『イギリスの中のパキスタン——隔離化された生活の現実』（明石書店）

内藤正典『ヨーロッパとイスラーム——共生は可能か』（岩波新書）

内藤正典『イスラーム戦争の時代——暴力の連鎖をどう解くか』（NHKブックス）

ミシェル・ウエルベック『服従』（河出書房新社）

エマニュアル・トッド『移民の運命』『経済幻想』『帝国以後』『文明の接近』（藤原書店）
サミュエル・P. ハンチントン『文明の衝突』（集英社）
リチャード・E・ニスベット『木を見る西洋人 森を見る東洋人——思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社）
アヤーン・ヒルシ・アリ『もう、服従しない——イスラムに背いて、私は人生を自分の手に取り戻した』（エクスナレッジ）
梅棹忠夫『文明の生態史観』（中公文庫）
梅棹忠夫・小山修三『梅棹忠夫 語る』（日本経済新聞出版社・日経プレミアシリーズ）
川勝平太『文明の海洋史観』（中央公論新社）／『文化力——日本の底力』（ウェッジ）
中村哲『医者 井戸を掘る——アフガン早魃との闘い』（石風社）
保坂修司『正体——オサマ・ビンラディンの半生と聖戦』朝日新聞社
モフセン・マフマルバフ『アフガニスタンの仏像は破壊されたのではない 恥辱のあまり崩れ落ちたのだ』（現代企画室）
酒井啓子『イラクとアメリカ』『イラクは食べる——革命と日常の風景』（岩波新書）
川上和久『イラク戦争と情報操作』（宝島社新書）
ベルナール＝アンリ・レヴィ『誰がダニエル・パールを殺したか？（上）（下）』（NHK出版）
ジル・ケペル『ジハードとフィットナー——イスラム精神の戦い』（NTT出版）
宮田律『イスラムに負けた米国』（朝日新書）
菅原出『戦争詐欺師』（講談社）
ローレンス・ライト『倒壊する巨塔——アルカイダと「9・11」への道（上）（下）』（白水社）
スティーヴ・ファイナル『戦場の掟』（講談社）（集英社新書）
ジェレミー・スケイヒル『ブラックウォーター——世界最強の傭兵企業』（作品社）
常岡浩介・高世仁『イスラム国とは何か』（旬報社）
池内恵『イスラム国の衝撃』（文春新書）
中根千枝『タテ社会の人間関係』（講談社新書）
梅棹忠夫『日本文化の構造』（講談社新書）
中橋孝博『日本人の起源 古人骨からルーツを探る』（講談社選書メチエ）

【Extra・2】

1月13日に授業中に提出してもらったコメント票を返却したが、それを見て、分量や内容が不十分であると思った場合は、当日の記憶やレジュメなどを参考に書き直し、再提出する。いつものコメント票ではなく、パソコンで書いて構わない。ただし、どの回の授業なのか、日付をきちんと書くこと。何本提出しても構わない。再評価する。

【Extra・3】

1月22日（金）の6時半から、新宿コズミックセンターで開催される「第441回地平線報告会」（報告者：石井洋子さん／南三陸町に住み着いた元南極観測隊員）に参加する（出席2回分と見なす。かならず会場で丸山に声をかけること）。二次会（懇親会：9時半～／学割あり）にも出席すれば、なおよし。簡単なレポート（感想）を提出すれば、さらによし（授業のコメント票数回分に相当すると見なす）。場所や内容などは、<http://www.chiheisen.net> 参照。

【欠席したり、締め切りに間に合わない場合は、メールで連絡の上、1月27日（水）までに、以下へ郵送すること】

丸山純 〒167-0041 東京都杉並区善福寺4-5-12 03-5310-3731 / jun@site-shara.net

（病気などで締め切りが守れない場合なども、諦めないでとにかくメールで連絡をとること）

【ダウンロードサイト】

<http://www.site-shara.net/daito/> ユーザーID：daito パスワード：bunka2015